

JENESYS2015 (招へい) (対象国：タイ、テーマ：文化（日本語コミュニケーション・ 日本文化体験)の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、タイより、日本語コミュニケーションと日本文化体験に関心を有する高校生および大学生計45名が来日し、日本の政治、社会、歴史、日本語および日本文化に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、12月14日から12月22日までの8泊9日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加国・人数

タイ 45名

3. 訪問地

東京都、岐阜県、静岡県

4. 日程

12月14日(月) 成田国際空港より入国、来日オリエンテーション

12月15日(火)【日本理解講義、基調講演】

【歴史・伝統文化】浅草、江戸東京博物館

12月16日(水)～12月20日(日) A・Bグループに分かれ、地方プログラム

*Aグループ(岐阜県)

【地方自治体講義】岐阜県庁

【歴史・伝統文化】岐阜市歴史博物館、岐阜大仏、美濃和紙の里会館、大垣城

【学校交流】大垣女子短期大学

【日本文化体験】茶道

【ホームステイ】

【ワークショップ】

*Bグループ(静岡県)

【地方自治体講義】浜松市役所

【歴史・伝統文化】龍潭寺、浜松市秋野不矩美術館

【学校交流】浜松学院中学・高等学校

【地場産業視察・体験】浜松濾布有限会社

【ホームステイ】

【ワークショップ】

12月21日(月) 東京へ移動

【成果報告会】訪日成果・帰国後活動計画発表

12月22日(水) 成田国際空港より出国

5. プログラム記録写真



12/15【日本理解講義、基調講演】（東京都）



12/15【歴史・伝統文化】浅草（東京都）



12/16【歴史的建造物視察/文化体験】龍潭寺
（浜松市）



12/16【地方自治体講義】岐阜県庁（岐阜市）



12/17【学校交流】浜松学院中学校・高等学校
（浜松市）



12/18【学校交流】大垣女子短期大学（大垣市）

6. 参加者の感想

◆ タイ 大学生

今回プログラムに参加して、各視察先やホームステイで、自力で電車に乗ってみる等、日本人と同じような生活をしてみて様々な感銘を受けました。日本人の生活について知らなかったり、一緒に生活した経験のなかった私たちにとって、本プログラムは日本をもっとよく知るための絶好の機会となりました。日本で学んだことを取り入れて自国の発展や人々に伝え広めることによって、更なる発展が期待できるばかりではなく、タイ日関係やタイと近隣諸国の関係改善にもつながると思います。帰国後タイの人々に伝えたいことは、日本人の自然に対する意識です。日本人が現在の日本人たる所以についてホストファミリーから教わり、日本人の考え方や生活の仕方についてより理解を深めることができました。今回のプログラムにより得られたものを、友人や後輩、家族に伝え広めることによって、日本に関心を持ち、日本人についてもっと知ってもらいたいと思います。

◆ タイ 大学生

今回の来を通して一番感動したことは数多くありますが、まず何といてもホームステイです。日本人の日常生活について知ることができました。一方、プログラムとしては、訪問地域の重要な場所を訪問・見学できるようになっており、日本の歴史についてより多くを学ぶことができました。日本には興味をそそられる街が数多くあり、それぞれの街に固有の特性があり、異なる風土に触れることができました。異なるとはいっても今回の訪日時期は大変寒い時期にあたり、タイとは異なるこのような気候を大いに気に入りました。自分たちで電車に乗って出かけてみたり、日本人の普段の姿を知ることができました。タイに帰国したら、自分が感動したことを他の人に伝えて、日本の伝統文化や日本人の日常生活について知ってもらいたいと思います。

◆ タイ 大学生

今回のプログラムを通して、日本について感動することが数多くありました。まず日本の秩序や規則正しさに触れることができました。すべての場所がとても清潔で魅力的でした。二つ目は、日本人は、自転車に乗ることを好むということです。「自転車」のための専用道があることが大変気に入りました。タイと比べて自動車が少ないのも大変良いことだと思います。三つ目は、日本の歩道に目の不自由な人のための黄色いブロックがあることです。タイにはないしすでもとても感動しました。四つ目は、日本人の思いやりです。道案内をして送り届けてくれたり、色々な場面で助けてくれました。最後は、日本の美しい景色と文化です。このプログラムで、私は多くの場所を見学しました。例えば、浅草、江戸東京博物館、龍潭寺、浜松市秋野不矩美術館。様々な場所の歴史を知るとともに、各施設の建築や芸術性にとっても感動しました。今回のプログラムを通してたくさんの感動体験を得ることができました。

7. 参加者の報告会での報告内容

<p>AFTER</p> <p>True → </p> <p>Not True → </p> <p>New → </p>	<p>HOW</p> <p>Social Network</p> <ul style="list-style-type: none"> - Youtube - Facebook - Webboard <p>School</p> <ul style="list-style-type: none"> - ประชาสัมพันธ์เครือข่าย - วารสารโรงเรียน - หนังสือพิมพ์โรงเรียน 
<p>日本での気づき</p>	<p>アクションプラン</p>
<p>KNOWLEDGE ABOUT JAPAN [DURING THE PROGRAM]</p> <ul style="list-style-type: none"> • NOT BE SO STRICT, STRESS, SERIOUS • HIGH POTENTIAL TECHNOLOGIES AS THOUGHT • WORK HARD AND PLAY HARD • HIGH RESPONSIBILITIES 	<p>DETAILS OF OUR PROJECT</p> <ul style="list-style-type: none"> • ADVERTISING INFORMATION ABOUT JAPAN BY USING SNS [SOCIAL NETWORK SERVICES] 
<p>日本での気づき</p>	<p>アクションプラン</p>